

今治歴史散歩

大成 経 凡

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第十五回は、伊予三湯の一つで知られる鈍川温泉の由来を紹介し、鈍川地区に温泉歓楽街が形成される背景を歴史散歩したいと思います。

第十五回 鈍川温泉の身近なルーツ

●愛媛の美人の湯・鈍川

平成二十五年十月十八日、鈍川温泉郷の国民宿舎玉川荘跡地に「鈍川すつびん美人の足湯」がオープンしました。これは、鈍川温泉郷の活性化事業の一環として、今治商工会議所が整備したもので、土曜・日曜・祝日の午前十一時〜午後四時（冬季は午後三時）に無料で入浴することができます。

鈍川温泉の泉質はアルカリ性単純泉で、フッ素とラドンを含み、約二〇度の冷鉱泉が湧出します。冷鉱泉のため、加熱の必要がありますが、これを水風呂として利用する温泉旅館もあります。源泉は、温

泉郷の場所以外に、数km先の木地川上流域にもあります。美人の湯でも知られ、女性のお肌（美容）にもいいとされています。

そもそも愛媛県は、麗しい女神を意味する県名で、わが国最古の歴史書『古事記』の国生み神話にその由来が登場します。そこに「伊予国を愛比売と謂ひ」の一節があり、この女神に「愛媛」の文字を当てたのが今治藩医（国学者）の半井梧菴でした。全国四十七都道府県で、神話の女神が県名となっているのは愛媛だけです。



昭和初期の鈍川温泉郷（写真集『時の瞬き』より）

●楠窪冷泉浴場の開場

梧菴は近世伊予を代表する地誌『愛媛面影』の著者でも知られ、明治二（一八六九）年に石鐵県（愛媛県の前身）の委嘱で伊予の『地理図誌』編纂を行うことになり、同七年にこれを発行。この中の越智郡鈍川村の項目に、鈍川温泉のルーツである楠窪冷泉浴場が紹介されています。

現在の温泉郷の辺りは楠窪と呼ばれ、梧菴が踏査したところには、すでに冷硫黄泉の湯治場が開設されていました。頑固な傷冷毒や婦人子宮衝逆痛などに効き、その効能は温泉にも勝ると記されています（泉質調査結果を記載）。浴場施設の配置図も描かれ、二段に造成された木地川の左岸に、養生所・休息所・浴室・泉室のあったことが分かります。

この浴場は、明治四〜五年に旧今治藩主の久松定法が整備しました。近くの敷時山が藩の御狩場でもあったので、土地の事情には詳しかったことでしょう。鈍川村（神子之森）は、幕末に今治城の移転計



楠窪冷泉浴場之図（『伊予国地理図誌（東予）』より）

画が持ち上がった場所でもありません。

しかし、廃藩置県で定法が今治を去ると、明治六年にこの浴場施設は土族に払い下げられたようです。当時の広告には、温浴料一日壹銭五厘・冷浴料一日八厘・養生処宿料などが記されます。当初、春夏の入湯客で賑わうも、冬季の客の落ち込みと交通の便の悪さで、同九年頃に廃止へといたります。

●鈍川温泉の開場

大正十（一九二一）年頃、鈍川村有志が発起人となり、村の地域活性化を目的に浴場の再興事業が持ち上がりました。当時、国鉄讚予線の敷設が伊予西条駅まで西進し、今治駅の開業を二、三年後に控えていました（同十三年二月開業）。再興の背景には交通網の発達があったと考えられ、全国的に観光・旅行ブームが到来しようとしていました。

明治の浴場廃止後、施設は解体されて田地へと変わっていましたが、湧水を村人が持ち帰り浴用とするなど、治疾の効果が顕著でした。そこで、村民から出資金を募って組合組織をつくり、浴場設備を整えて道路の改修を行うことになりました。

こうして、鈍川温泉組合経営による鈍川温泉（本館）が大正十四（一九二五）年九月十八日に開場します。当時の様子を、海南新聞は「自動車賃は今治市より『愛媛自動車』一圓で入浴料は十銭で止宿料は一切木賃制度とし客人の需めに應じて食物を出す」と云うことになって居る」と伝えていきます。

昭和十一（一九三六）年四月には、吉井勇が歌行脚でサクラの名所・千疋峠を訪ね、鈍川温泉の鶯鳴館に宿泊しています。彼の全集八巻『紀行』に、「帽子もかぶらず、タオルの手拭の後鉢巻、宿の襦袢を尻からげにして、鈍川温泉を出発せるは…」の一文が見られます。太平洋戦争中は寂れ、海軍の療養所にする話もあったようです。

鈍川温泉の再生は、昭和二十七（一九五二）年春



鈍川温泉のバス停留所（昭和46年、近藤福太郎氏撮影）



鈍川すっぴん美人の足湯（旧国民宿舎玉川荘跡）

に動きだします。瀬戸内運輸株・瀬戸内海汽船株らが鈍川温泉本館を買収して鈍川温泉観光株をつくり、近代設備の整った観光ホテルが誕生。国鉄周遊地の指定を受けて、バスの便数も増えます。同社が昭和三十七年に増設した観光センターは、三百人が会食できる演舞場つき大広間（八十畳）を備えていました。他の旅館もこれにつづき、カドヤ別荘が同二十九年、国民宿舎玉川荘が三十六年、別館美賀登が三十八年…と、昭和三十年代には現在の状況に近い温泉郷となり、玉川町の山峡に歓楽街が誕生したのです。